



森林の流域管理システム推進発表大会

活動の成果を発表

九州・沖縄各県から350人が参加

10月15、16日の両日、熊本市国際交流会館において「平成24年度森林の流域管理システム推進発表大会」を開催。九州各県の森林・林業関係者や九州・沖縄の各県で森林・林業を学ぶ高校生、当局・署の職員など、延べ約350人が参加しました。

発表は、それぞれの地域や職場、学校などで取り組んでいる、森林・林業再生プランに伴う取組、流域林業の活性化や林業技術の向上、環境保護活動さらにシカ被害対策など多岐にわたる26課題（一般の部17課題、高校の部9課題）の発表があり、審査委員会で特に高い評価のあった一般の部5課題と高校生の部2課題が表彰されました。（2面に関連記事）

一般の部17課題・高校生の部9課題を発表＝熊本市国際交流会館

この発表大会は、九州林政連絡協議会が主催し、産官学の森林・林業関係者が日頃取り組んでいる活動の成果を発表し、技術の交流や情報交換を行い、流域の森林・林業の活性化を図る目的で開いているもので、今回で18回目を迎えました。

「昨年度本格的スタートした森林・林業再生プランの眼目は川上から川下までを一体的に整備し、国産材供給体制の確立や低コスト林業の実現であります。今次大会の参加者も川上から川下に至る関係者であり再生プランの遂行に繋がることを期待しています。また、発表内容につきましては、九州全域で猛威を振るっているシカ被害への対策や、低コスト林業・集約化・さらに木材需要の拡大など、各般にわたる課題が用意されており、研究成果に大いに期待します」とも、流域林業の活性化・九州全体の森林林業の再生に役立つことを心からご祈念申し上げます。とあいさつの後、1日目の発表、一般の部17課題の発表を



特別講演を行う九州育種場千吉良治室長

行いました。二日目は高校生9課題の発表があり2日間にわたる発表が終了しました。その後、(独)森林総合研究所林木育種センター九州育種場の千吉良治育種研究室長による「エリートツリー開発までの道のりと現状」と題して特別講演がありました。最後に審査委員長の(独)森林総合研究所九州支所の中村松三所長から講評があった後、九州林政連絡協議会会長賞(最優秀賞1課題、優秀賞4課題)と九州森林管理局局長賞(最優秀賞1校、優秀賞1校)に表彰状が授与され2日間の日程が終了しました。

(担当)指導普及課

26 課題の中から特に高い評価のあった
一般 5 課題 との **高校生 2 課題** を表彰

平成24年度森林の流域管理システム推進発表大会の各賞の入賞課題と発表者は次のとおりです。

九州林政連絡協議会会長賞

最優秀賞
 ◇「巾着式網はこわな」の開発
 (箱わなのポータブル化への取組)
 森林技術センター



最優秀賞受賞の森林技術センターのみなさん

優秀賞

◇集約化促進に向けた森林情報精度向上への取組
 大分県農林水産部林務管理課
 江藤啓介



優秀賞の大分県林務管理課江藤さん

◇鹿児島市吉田地域における提案型集約化施業の推進
 鹿児島県鹿児島地域振興局
 満留良文

◇船浦ニッパヤシ群落を取り巻く環境の推移
 西表森林環境保全ふれあいセンター
 築川伸一



優秀賞の西表森林環境ふれあいセンター築川さん 優秀賞の鹿児島地域振興局満留さん、阿久根さん

◇低コスト獣害対策(シカネット)への取組
 宮崎森林管理署都城支署
 郷原寛美

森正文
 村上英志



優秀賞の都城支署森さん、郷原さん、村上さん

高等学校の部
 九州森林管理局長賞

最優秀賞

◇挑戦！学校林除伐・間伐材の有効利用
 炭焼窯制作から木炭づくりへの取組
 鹿児島県立伊佐農林高等学校
 岩下優介

優秀賞
 ◇「地域にひらかれた森林空間の創造」
 森を歩こう！いやし効果を求めた自然観察道づくりとその利
 用について
 熊本県立芦北高等学校
 桑本裕一郎

◇「地域にひらかれた森林空間の創造」
 森を歩こう！いやし効果を求めた自然観察道づくりとその利
 用について
 熊本県立芦北高等学校
 桑本裕一郎



濱田真大
 上村亜希
 北岡未希

最優秀賞 鹿児島県立伊佐農林高等学校



優秀賞 熊本県立芦北高等学校

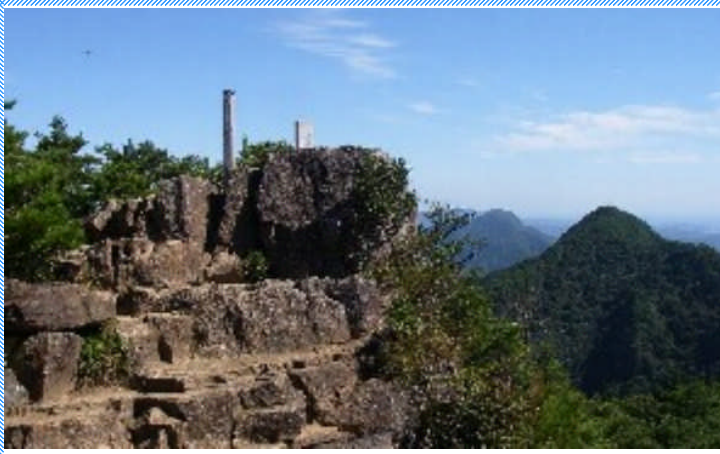


宮崎北部森林管理署

延岡森林事務所

首席森林官 山邊 隆広

行藤山は、宮崎県北部、延岡市の西方向に位置し、頂上部に至る露出した岩肌と、日本の滝百選にも選ばれた行藤の滝が印象的な山です。西側に標高八三〇の雄岳と、東側に標高八〇九の雌岳からなり、その間を行藤の滝が流れます。正面から



行藤山雄岳山頂付近の岩肌

そそり立つ岩肌と荘厳な滝
独特な山容の『行藤山』(むかばき)

見ると、昔の武士が狩猟、騎馬などで、腰部から脚部にかけて着用したものが行藤に似ていることから行藤山と呼ばれるようになったそうです。行藤山の成り立ちは、2千万年以前、新生代の地質時代に、花崗岩の山塊が隆起して出来た大崩山(おおぐえやま)の南側に生じた亀裂に花崗岩脈が噴出して生まれた

とわれています。延岡市内からおよそ15分で登山口に行けること、雄岳山頂まで2時間程度で登れることから、家族向け、小中学校のハイキングの場として親しまれています。また、雄岳頂上からの眺望はすばらしく、延岡市内、日向灘が一望できる観光スポットになっており、春には、ササユリ、アケボノツツジなどの高山植物の開花が見られます。国有林の中心部分、登山口から標高三〇〇の登った付近まで、それから左右の雄岳頂上部および雌岳に向かってV字型に伸びる岩壁部分を含む範囲が管轄区域となります。森林と人との共生林、森林



雄岳山頂から眺望した延岡市内

ケボノツツジなどの高山植物の開花が見られます。国有林の中心部分、登山口から標高三〇〇の登った付近まで、それから左右の雄岳頂上部および雌岳に向かってV字型に伸びる岩壁部分を含む範囲が管轄区域となります。森林と人との共生林、森林



日本の滝百選に選ばれた「行藤の滝」

空間利用タイプに区分し管理しています。また、保健保安林と祖母傾国定公園などの指定を受けています。

【登山案内】登山口発↓滝見橋30分↓山頂1時間30分↓駐車場1時間30分

【登山口までのアクセス】

延岡市内から五ヶ瀬川沿いに国道218号線を高千穂方向に向かい、平田町で行藤山の標識に従って右折、旧高千穂鉄道のガードをくぐり進むと、1本道で行藤山が正面に見えてきます。そのまま進むと行藤青少年自然の家の手に行藤神社の鳥居が左手に見えます。それから50分先が駐車場です。駐車場から行藤神社鳥居をくぐり、すぐに右手に登山口が見えます。

高山植物保護のためロープ柵設置

【大分森林管理署】阿蘇くじゅう国立公園で、日本百名山の「くじゅう連山」には、年間30万人の登山者が訪れます。登山者には、ミヤマキリシマなどの保護のため、登山道以外への立ち入りはご遠慮願っています。

しかし、一部の登山者による踏み荒らしが見かけられます。このため、森林保護員による巡視を行っています。跡を絶たない状況です。このため、防止策として登山道沿いにロープ柵と看板を設置する作業を進め、森林保護員と職員でこれまでに千以上設置し、今後五百以上設置する予定です。登山者からは感謝の言葉もいただいています。



ロープ柵を設置する森林保護員＝大分西部

秋晴れの下親子で木々にふれあおう 子どもスケッチ大会に166人が参加

10月21日、親子で木々にふれあひ、森林やみどりの素晴らしさを実感してもらおうと、「第8回監物台樹木園森林(もり)とみどりのこどもスケッチ大会」を監物台樹木園にて開催しました。



子どもスケッチ大会に参加したみなさん＝監物台樹木園

当日は、一般公募による幼児及び小学生と保護者など166人の参加者が、園内に咲いている花や樹木などを、絵の具・クレヨンなどでスケッチしました。大会は、矢野彰宏計画部長の挨拶の後、講師に菊池市在任の美術家怒留湯(ぬるゆ)誓先生から絵を描く上での留意点などの指

導があり、スケッチを開始しました。この日は、さわやかな秋晴れとなり、参加者は各々お気に入りポイントを見つけて、真剣にスケッチに取り組む姿が見られ、怒留湯(ぬるゆ)誓先生から

直接絵のアドバイスをもらったり、家族で一緒にスケッチする

参加者や、樹木や草花をじっくり観察しながらスケッチをする子など、思い思いに画いた作品が出来上がりました。その後、審査の時間を利用して森林教室を実施、空飛ぶ種子の模型作りを行い、模型が空高

く上がるのを見て、子供達の歓声に包まれ、たのしい森林教室となりました。閉会式では、優秀作品の発表を行い、緑の普及大賞1点、緑の普及賞6点について矢野彰宏計画部長から表彰状と副賞の授与を行い、スケッチ大会を終了しました。当日行ったアンケートから「親子で一日自然の中でゆっくり過ごせた。」「来年

イベントなどの文化資源も豊富に有しています。さらに、豊かな自然の中にある国内の最先端技術の粋を集めた宇宙空間観測所とロケット打ち上げ施設を有し、世界的にも注目される場所として位置づけられています。ここから打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ」は地域のシンボリックな存在として知名度の向上に繋がっています。本町の林野面積のうち約7割が国有林であり、水源の涵養、自然環境の保全などの公益的機能の維持増進が図れるなど、国の取り組みに感謝しております。

さざなみと海を渡る町「肝付町」



鹿児島県肝付町 町長 永野 和行 さん

肝付町は、本土最南端の鹿児島県大隅半島南東部に位置し、面積は約三〇八、一五平方キロと広大で、中央部には九〇〇級級の山々が連なる肝属山系を形成し、その約8割を山林が占めています。北西部には笠野原台地や肝属平野が広がりが約二五〇〇畝からなる水田・畑作地帯と市街地などを形成しており、この平野部には、常緑広葉樹が広く残された肝属山系や高隈山系に源を発する肝属川が流れ、豊富な水資源を蓄え志布志湾へと注ぎ込んでいます。

南東部は急峻な山脈がそのまま太平洋に落ち込む美しい海岸線が50キロに及び、豊かな海の資源を育んでいます。温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれ、塚崎古墳群や二階堂家住宅をはじめとした史跡、約九〇〇年の伝統を誇る流鏝馬やドヤドヤサーなどの伝統行事、その他各地域で実施されている

そのほか各地域で実施されている

もまた参加したい。」との声が寄せられました。入賞者は次のとおりです。
○緑の普及大賞(1点) 大橋沙希
タイトル「大きな大きなくりの木」
○緑の普及賞(6点) 清元香花・桑原明佳・末永幸笑 竹下慶・田代蒼汰朗・後藤あや (担当 指導普及課)

モニター会議「宮崎」を開催 13人のモニターが参加

10月20日、国有林モニター会議「宮崎」を開催し、13人のモニターに参加いただきました。

午前中は、宮崎市内の本田野国有林で、津々見正樹宮崎森林管理署長、上別府悟業務課長の案内で管内の概要説明、活用型間伐実施箇所及びコンテナ苗植栽試験地の見学を行いました。

林内に作業道を作りながら木材を伐採搬出する間伐の作業現場を初めて見る方も多く、森林作業道の線形や列状間伐後の林地について、「道づくりの苦労が分かった」「よく手入れがされた明るい森林という印象を持ちました」などの感想がありました。また、造林コストの低減を目指す

し、事業ベースで実証データの収集を行っているコンテナ苗の試験地では、実際の植栽作業や苗の重さ、運搬方法、今後の取組などについての質問や説明がありました。

午後になり、株式会社長倉樹苗園でコンテナ苗生産施設見学を行い、コンテナ苗生産の工程や工夫などについて説明を受けました。モニターからは、培土や差し穂の調達、今後の展望など、多くの質問がありました。

その後、田野文化会館へ移動し、九州森林管理局の取組紹介と、全体を通しての質疑応答及び意見交換会を行いました。国有林モニター制度への思い、理想とする森林、森林と人との関係、国産材利用の意義や可能性などについて、各モニターから多くの発言がありました。参加者からいただいた、貴重な意見や感想は、今後の国有林野の管理経営に活かしてまいります。

(担当：企画調整室)



モニター会議「宮崎」へ参加のみなさん



衛藤 恒久 さん



合いに興味をもった。勿論、これらの原木を含む様々な国産材が戦後の日本の復興に貢献したことは言うまでもない。昨年の東日本大震災で大きな被害を受けた東北地域に、国有林を始めとする国産原木が復興に役立っているという。

しかし、日本の山林業は戦後の復興期に国産材が高く売れ、適地でない山も広葉樹を伐採、高く売れる針葉樹をじゅうたんのように植林した。政府は国産原木の高騰に根を上げ、その後、木材の輸入自由化を行った。

安い北米産木材が大量に輸入されるようになり、国産材のシェアは20%に落ち込んだ。我が国の

「国有林の使命」

の林地は急峻な山岳が殆どで、大陸の林地として生産性が低い。その為、外材との価格競争に敗れ、民有林を中心に管理放棄、荒廃林がいたるところに存在する。台風や豪雨災害のたびに大量の倒木が流出、被害を拡大させている。これらの流木は殆ど

め、森と人々の繋がりを再認識するようになった。森林は生物の住処である。人も又、森を否定しては生きていけない。森林の持つ多面的効用は既に認知され、多くの国民から理解されている。

日本の森林の再生は国有林の使命でもある。

かつてのような原木生産一辺倒でなく、国民への様々な政策をとるべきである。

荒廃林が元凶である。戦後の経済成長で豊かさを味わった国民、政府も経済至上主義で、何時しか先人たちの治山治水という尊い経験に基づいた国土の保全が希薄になっていった。

地球温暖化で最近の自然災害は過去の被害を更新、国民は過去の林業家の育成など、多岐にわた

る活動は近い将来、日本に健全な森林の出現が可能である。治山、治水という言葉の中には自然の恵みが眠っている。資源がない国土ではあるが、金では買えない豊かな自然がある。森を守り育てることは国民も民間も同じだ。

数年前までは、毎年のように高千穂峰へ登山に行っていた。整然と管理された杉の森、巨木の原生林の中での深呼吸、人間がよみがえる一瞬である。人と森との原点である。

国有林が日本の新しい時代と、国民の多元的豊かさを切り開く先頭に立つてほしい。機会があればもう一度、原生林の中で深呼吸がしたい。

(大分県大分市在住)

戦後、小学低学年の頃、薪を取りに毎日のように山へ行った。昭和30年代には、大分県と宮崎県にまたがる祖母、傾山系の国有林から原生林が切り出され、巨木が当時の清川村にあった貯木場に山積みされているのを見て、森林の歴史と人との係わり

レクリエーション推進のための現地検討会開催

ROSの考え方に基づいた整備の推進

10月15日～17日の3日間、東京農工大学大学院土屋俊幸教授を講師に、くまもと自然休養林におけるレクリエーションの整備推進のための現地検討会を九州森林管理局、熊本森林管理署、くまもと自然休養林金峰山地区保護管理協議会及び菊池渓谷を美しくする保護管理協議会の関係者20人が出席し実施しました。



検討会へ参加した関係者の皆さん

本検討会のテーマは、ROSの考え方に基づきレクリエーションの森の整備推進をどのように進めていくかというもので、「様々な質のレクリエーションが必要となっていました。Recreation (レクリエーション) Opportunity (機会) Spectrum (稿状) という呼称が示すよう多様なレクリエーション体験の場を提供することを計画していくための実践的な手法です。初日は、ROSの考え方に ついて土屋俊幸教授の講義と局署で作成した金峰山地区におけるROSの想定例により現況におけるニーズ調査に替えてニーズの創出、持続可能な管理手法の視点から、地元商工会などとの



東京農工大土屋俊幸教授

協働やオフィシャルサポーターの募集、一般市民の参加型によるレクリエーションの森の整備などの提案を行いました。2日目は金峰山、二ノ岳、三ノ岳の登山道、看板の整備状況、修景施業を行っている現地において活発な意見交換会と改善例などについて検討を行いました。最終日は、土屋俊幸教授から講評があり、①ROSを継続して行うことの重要性、②地元や地域のボランティアとの意見交換の「場」を持つことが大切などの貴重な提言をいただいたことに對し、多くの質問や意見が出され、3日間を通じ、有意義な現



阿蘇高岳山頂には、「天狗の舞台」という溶岩でできたテール状の岩がある。そこからの眺めは、目の前に根子岳、眼下に阿蘇谷、南郷谷を見下ろし、

「天狗の舞台」に立つ

遠くに久住山、祖母山、雲仙岳まで360度のパノラマが広がっている。体育の日に、仙酔峡ルートで高岳へ登ってきた。前回5月末に登ったときにはミヤマキリシマが咲いていた山頂は、リ

地検討会となりました。今後は、本検討会の結果を活かす為にも、さらにレクリエーションの森の整備を推進していくこととしていきます。
(担当 国森林野管理課)

ふじの森のついで

【西都児湯森林管理署】西都原に咲くコスモスの時期に合わせ、地場産品のPRや産業及び観光振興を目的に「さいとふるさと産業まつり2012」こんなまつり」が開かれ、当署から、職員手作りの木工品を出品しました。晴天に恵まれ多くの参加者で賑やかな催しとなり、インドウの花が見頃で涼しい風が吹き抜ける好天気だった。



人気があった手作り木工品＝西都児湯

しかし、「天狗の舞台」に立つと土石流の跡が根子岳から外輪山にかけて多数見られ、先の「九州北部豪雨」の激しさを改めて確認することになった。登る途中からも噴火による何百層もの堆積物の層や急峻な溪流に土砂の流出した形跡が見られ、過去から災害が繰り返していたことが容易に想像出来た。

阿蘇谷に人が住み始めたのは約2千年前といわれ、現在までに幾度となく災害に見舞われながら、そのたびに復興して来たのだらう。自然の猛威もすごい人が人の営みの強さも感じる。近い将来必ず復興すると信じている。

最後に、今回の災害で亡くなられた方のご冥福をお祈りしますとともに一刻も早い復興を祈っています。
(治山課長 中村実敏)

林野庁長官表彰受賞 安全・衛生ポスター標語

林野庁が毎年行う安全・衛生ポスターなどの募集について各署から提出された作品を応募した結果、宮崎北部森林管理署岩上勇技官と屋久島森林管理署基幹作業職員日高三成さんの標語が見事入選しました。

2人にはこの程、各署長から賞状が伝達されました。九州局から2作品の入賞は2年ぶりのことで、日頃から各署等における安全衛生意識の高揚に対する成果と考えているところとです。

入選作品は次のとおりです。



表彰された岩上技官＝宮崎北部署



表彰された日高三成さん＝屋久島署

●安全ポスター標語

「焦る気持ちに危険が潜むゆとりの気持ちでハンドルの握り 今日も一日安全運転」
宮崎北部森林管理署
農林水産技官 岩上 勇

●衛生ポスター標語

「元氣なあいさつ さわやか笑顔 みんなで作る 明るい職場」
屋久島森林管理署
基幹作業職員 日高 三成
(担当＝職員厚生課)

衛生講話と 救急法講習会を実施

労働衛生週間及び準備月間行事の一環として、衛生講話と救急法講習会を局大会議室にて行い、それぞれの講習会に約70人の職員が参加しました。

衛生講話では、桜が丘病院の原田健一氏が「心とからだの健康づくり」と題して講話。

救急法講習会では、熊本西消防署救急隊員による救急法の講習を受けました。

原田健一氏からは、ストレスと上手に付き合っていくためにどのようなしたら良いかストレス・パターンチェック表により、

各自のストレスの状況を把握するなど、具体的な対処法を知る良い機会となりました。

また、救急法講習会では救急隊員から、救急時の連絡や応急手当の方法を学んだ後、3つの班に分かれ職員一人づつ、模擬人形に触れて心臓マッサージやAEDの使用について実技の指導を受け、救急法においても、基本動作が第一であり、迅速で正確な初期対応の大切さを改めて学んだ講習となりました。

(担当＝職員厚生課)



原田健一先生の衛生講話を聞く職員＝局大会議室



救急法について説明を聞く参加者＝局大会議室

「遊々の森」で森林教室



現地にて記念撮影する安房小の児童ら＝屋久島

【屋久島森林管理署】10月19日安房小学校5年生を対象に屋久杉ランド近くの「遊々の森」で森林教室を行いました。はじめに、森林の働きや周辺の樹木の説明、種子の模型飛ばしを行い生徒達は夢中になって空高く飛ばしていました。その後、林内で枝打ちや丸太切り体験を行います。はじめは、うまく切ることができませんでしたが、上手に切れるようになります。何回もチャレンジして行きました。最後に「今日一日の体験で何が一番楽しかった？」と聞くと「全部！」と、子供達にとって、秋の楽しい思い出となった1日でした。

治山事業西三局協議会へ参加

治山事業について情報交換

10月17日から19日までの3日

間、近畿中国森林管理局において治山事業西三局協議会が開かれ、林野庁から業務課、治山課の担当者や当局から4人が参加しました。同協議会は近畿中国森林管理局、四国森林管理局、

当局が意見交換等を通じ治山技術の研鑽や治山事業の発展に寄与することを目的に、毎年各局持ち回りで開いているものです。

1日目は近畿中国森林管理局会議室において、設計積算、施工方法の技術面や災害情報などについて熱心な意見交換が行われました。



協議会へ参加した西三局の関係者＝近畿中国局

2日目と3日目は、奈良森林

管理事務所管内および和歌山森林管理署管内において、昨年発生した台風12号の大規模山地災害箇所や復旧状況などを視察しました。

現地は奥地急峻な地形で山地災害の傷跡が今も多く残っており、被災現場は山腹に崩壊土砂を残したままの箇所も多く、土

す。

山腹崩壊で河道閉塞した箇所、また河川には数十キに及ぶ莫大な量の土砂が堆積しており、土砂災害のすこさを実感しました。

近畿中国森林管理局では、民有林直轄治山事業を奈良森林管理事務所管内で1箇所について区域拡大、和歌山森林管理署管内で平成25年度から1地区立ち

石流などへの安全対策を講じ、懸命に復旧工事が行われています。

上げ、民国一体となった治山事業を推進しています。

今回の現場視察や各局治山担当者との情報交換を通じ、治山事業の重要性を再認識し、今後治山事業を展開していくうえで大変有意義な協議会となりました。

現在も避難して仮設住宅に居している方々があり、早期に復旧し安心して暮らせる日が来ることを切に願っています。

(担当) 治山課



山地に普通な常緑高木、分布

は秋田県から南の本州から四国、九州(屋久島)に分布し、混交林を作り純林は稀です。ほとんど植栽されることはありません。

日本ではクリスマスツリーとして活用されていますが、ヨーロッパでは、ヨーロッパモミ、ドイツトウヒが使われています。

モミの見分け方には「モミに爪有リツカに爪無し」と云われるように若い木の葉先を見ることでわかりますが、モミは果実が成熟すると種子と一緒に鱗片が飛んでしましますのでマツカ

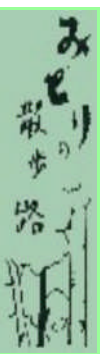
⑥1 モミ(マツ科)

サ(マツホックリ)を見ることができません。

モミが種子を飛ばした後は、五寸釘を逆さにしたような果軸を見ることが出来ます。初めて見る人には不思議がられます。

モミの林立している対馬の御嶽、鹿児島県の稲尾岳、熊本県の内大臣などの森は、アカガシやブナとの混交林となっており、モミの純林を見ることはほとんどありません。

モミは以前は天井板や箱の材料と使用されていましたが、現在は集材材が利用され、あまりモミは利用されていません



自分の故郷をふとしたことで

思い出すことがあります。懐かしい田舎の風景は、心の中を穏やかに落ち着かせてくれるものです▼残念ながら日々の忙しさに紛れて忘れてしまいそうになります

ですが、スピード時代である昨今のご時世なのかもしれません▼そう言えは故郷を感じるテレビ番組に「ケンミンSHOW」という番組があります▼五感の中

の味覚に注目し、ある県民が昔から普通に食べている駄菓子や料理が、実は他県では全く食べられていないことを紹介するもので、県民(ケンミン)の郷土愛をかきたてるというユニークな番組。「昔から食べているもので私の県ではロングセラーですよ」とゲストが誇らしげにコメントする▼昔から地域に根ざしてその味を変えることなく作り続けて、県民の心を見事に捉えている。本当に頭が下がる

▼今年も紅葉が美しい季節となった。山に携わる我々も地域に根ざして、ケンミンの皆様がいつ帰省されても昔と変わらない懐かしい「故郷の森」をロングセラーのまま、今でもしっかりと守り続けております(た)